

第六章 結論

6-1 本研究の目的に対する結論

本研究の目的である容器包装リサイクル法「その他プラスチック」を実施している自治体における分別収集方法やリサイクル率及び費用等との関係から比較し、その結果、どういった方法がプラスチックのリサイクルをより促進できるのかを明確化することについての結論を述べる。

6-1-1 リサイクル率等を高くするための分別収集方法

分別収集方法と各項目の比較により、リサイクル率、リサイクル率、プラスチック製容器包装排出率、品質評価結果において、その他プラスチックのみ収集の方が、プラスチック一括収集より、高い値となったことから、その他プラスチックのみ収集の方が、リサイクル率やプラスチック製容器包装排出率を上げ、ペールの品質を上げることに適しているといえる。ただ、プラスチック収集・処理単価については、その他プラスチックのみ収集の方が高くなっていた。選別の有無、選別方法に関しては、分別収集方法とは関係性が見られなかった。以上のことから、その他プラスチックのみ収集の方がプラスチック収集・処理単価は高くなるが、リサイクル率、プラスチック製容器包装排出率、品質評価結果の全てにおいて、プラスチック一括収集より、高くなるので、その他プラスチックのみ収集の方がリサイクル促進に適しているといえる。

6-1-2 リサイクル率 を高くする方法

リサイクル率 と各項目の比較により、リサイクル率 が高い市は、リサイクル率、プラスチック製容器包装排出率が高いことが分かった。

品質評価結果とリサイクル率 については、リサイクル率 が高いにも関わらず、品質評価結果が低いという傾向が見られた。

プラスチック収集・処理単価との関係については、関係性が見られなかった。

選別については、選別をしていない市の方がリサイクル率 が高い傾向になった。選別をしていない市の方が高くなった要因として、選別をしていない分、市民の分別排出が上手くいっていると推測できる。選別をしていない市の方がリサイクル率 が高くなったことから、選別をしていない市の方がリサイクル率 を高くする方法に適しているのかもしれないが、選別をしている市が9割を占めていることから、リサイクル率 を高くするための選別方法を述べておく必要がある。また、選別をしているにも関わらず、リサイクル率 が低くなったことから、選別方法に原因があると可能性も考えられる。選別方法とリサイクル率 の結果より、手選別と手+機械選別のうち、手選別の方がリサイクル率 が悪くなるという傾向が見られたことから、リサイクル率 は選別方法と関係があるといえる。よって、選別をしている市は、手選別より、手+機械選別の方がよりリサイクル率 が高くなり、リサイクル促進に適しているといえる。

6-1-3 リサイクル率 を高くする方法

リサイクル率 と各項目の比較により、プラスチック製容器包装排出率、プラスチック収集・処理単価については関係が見られなかったが、品質評価結果、選別の有無、選別方法に関しての傾向は見られた。

品質評価結果との関係は、リサイクル率 が高い市は品質評価結果も高いことが分かった。また、選別については、リサイクル率 と同様、選別をしていない市の方がリサイクル率 が高くなった。6-1-2 と同じように、選別をしている市が9割を占めていることから、リサイクル率 を高くするための選別方法を述べる必要がある。選別をしている市のリサイクル率 については、手選別より、手+機械選別の方が、高い傾向にあることが分かった。以上より、リサイクル率 と同様に、選別をしている市は、手+機械選別の方がリサイクル率 が高くなり、リサイクル促進に適していると考える。

6-1-4 プラスチック製容器包装排出率を高くする方法

プラスチック製容器包装排出率と各項目の比較により、プラスチック製容器包装排出率と品質評価結果から、Aランクの市が、プラスチック製容器包装排出率が一番低いという傾向にあることが分かった。

また、プラスチック収集・処理単価との関係性は、プラスチック製容器包装排出率が高い市の方が低くなっていた。

選別との関係は、選別をしていない市の方が、選別をしている市より、プラスチック製容器包装排出率が高くなった。この要因としては、選別をしていない分、市民の分別排出が上手くいっていると考えられる。

また、選別をしている市が9割を占めていることから、プラスチック製容器包装排出率が高くなる選別方法を述べておく。選別をしている市の中では、手選別の方が、プラスチック製容器包装排出率が高い傾向にあった。よって、プラスチック製容器包装排出率を高くするための選別方法としては、手選別の方が適しているといえる。

6-1-5 品質評価結果を上げる方法

品質評価結果と各項目の比較より、品質評価結果とプラスチック収集・処理単価を見ると、A・Dランクはプラスチック収集・処理単価が高く、Bランクはプラスチック収集・処理単価が低くなっていた。そのため、プラスチック収集・処理単価と品質評価結果の関係については一概には言えない。

選別と品質評価結果については、選別をしている市の方が、品質評価結果が高くなる傾向にあることが分かった。更に、手+機械選別の方が、手選別より品質ランクが高くなるということが分かった。よって、品質ランクをより上げるには、手+機械選別による選別をすると効果的であるといえる。

6-1-6 プラスチック収集・処理単価と上記各項目との関係を踏まえた結果

プラスチック収集・処理単価と各項目の比較により、プラスチック収集・処理単価と選別の有無との関係は、選別をしている市の方が、選別にかかる費用があるため、プラスチック収集・処理単価が高くなった。プラスチック収集・処理単価と選別方法については、手選別の方が手+機械選別より、プラスチック収集・処理単価が高いことが分かった。

6-1-7 各項目の結果をまとめた結論

それぞれの項目と選別方法の関係性から考慮すると、分別収集方法はその他プラスチックのみ収集で、かつ、選別をしている市の場合は、手+機械選別の方が、リサイクル率、品質評価結果が高い傾向にあり、プラスチック収集・処理単価も低い傾向にあることが分かった。よって、リサイクルを促進するためには、選別をしていない市でプラスチック一括収集の市は、その他プラスチックのみ収集の方が望ましいことがいえる。また、選別をしている市の場合は、分別収集方法はその他プラスチックのみ収集、選別方法は手+機械選別の方が適しているといえる。

以上が本研究の目的である、容器包装リサイクル法「その他プラスチック」を実施している自治体における分別収集方法やリサイクル率及び費用等との関係を比較し、その結果、どういった方法がプラスチックのリサイクルをより促進できるのかを明確化することの結論である。

6-2 今後の提案と課題

本研究より、リサイクルを促進するための方法として、選別をしていない市でプラスチック一括収集の市は、その他プラスチックのみ収集の方が望ましく、選別をしている市の場合は、分別収集方法はその他プラスチックのみ収集、選別方法は手+機械選別の方が適しているということが明らかになった。ただ、本研究の結論では、リサイクルの促進方法を述べただけで、その方法に合った実態を把握するための調査が出来なかった。よって、本研究で述べたリサイクル促進方法に当てはまる市の実態を調査し、分析することが、リサイクルを促進するために必要であると提案する。そこで、実態把握の項目提案事項を以下に示す。

選別をしていない市の場合は、選別をしていない分、市民の分別排出が徹底されていると考える。そこで、以下の調査をすることを提案する。

- ・市民の分別排出への理解度
- ・市民の分別収集方法に対する理解度を上げるために行ったことや工夫点（市民への呼びかけ方法等）
- ・分別収集頻度（週何回か）

- ・ごみ区分の種類(区分が多い方が分別に対する市民の意識が高い可能性があるため)

選別をしている市の場合は、選別をしている市の中でも、リサイクル率等が高かった市と低かった市の違いを把握することが必要だと考える。そこで、以下の調査をし、比較することを提案する。

- ・市民の分別排出への理解度
- ・選別施設の規模
- ・選別後に処理ルートへ渡すまでの経路
- ・処理ルートが独自ルートの場合の方法

本研究では、リサイクルの促進方法を述べただけで、その方法がどの程度有効であるのかということを調査できなかったため、以上のことを、今後の課題として提案する必要がある。